

老齡木・貴重木の養生

1. 貴重木の保護

社寺の境内には御神木など大樹が多くみられるが、これらの樹木は一般に老齡木であるため、衰弱したり幹に腐朽が入ったりして保護を必要とするものがある。

このような貴重な大樹の保護について現状から考えられることを記してみたい。

2. 根の保護

社寺の境内を駐車場に使用している例がよくみうけられ、そのようなところでは大樹を保護するために柵で樹の根元近くを囲っている。ところがこのような処置は真の保護になっていない。(図-1)

図にみられるように柵の附近は太い根だけで細根は柵から離れたところに分布している。

根の働きをみると、太根は茎と同様に水を通す

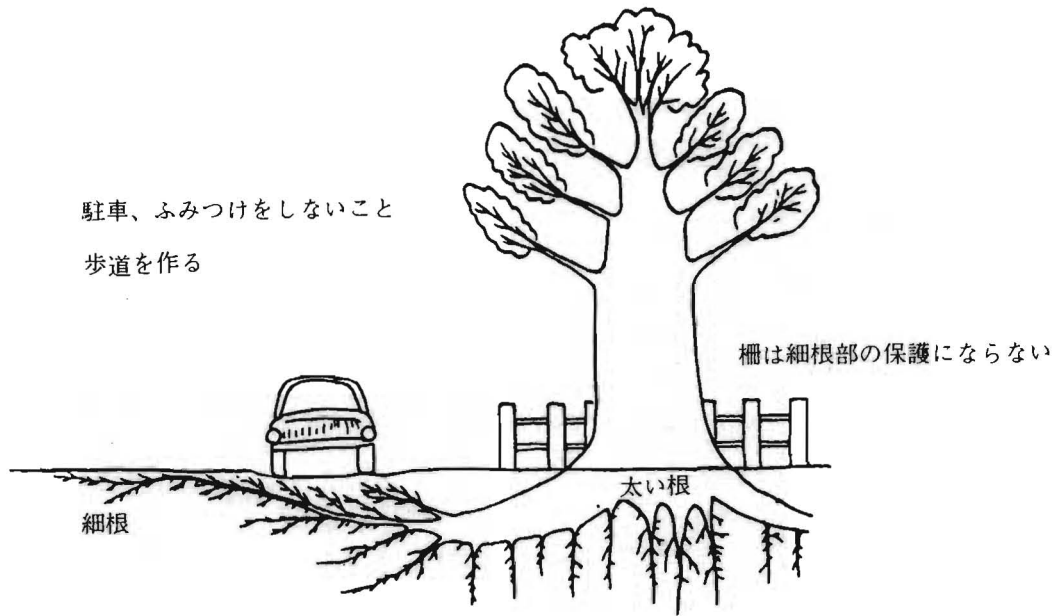


図-1 老齡樹の保護

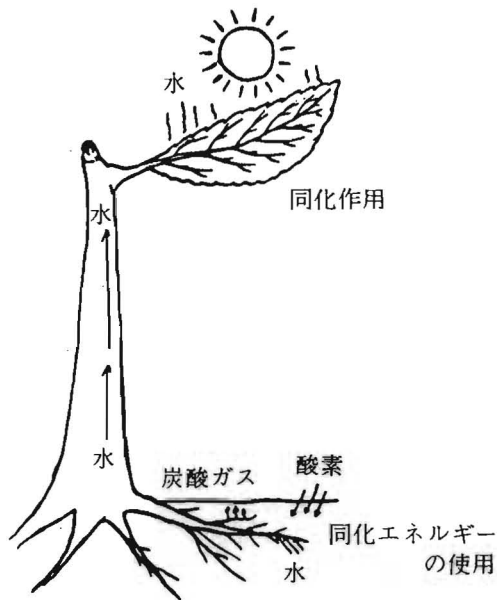


図-2 樹体内の水の動き

だけであり、水や養分を吸収するところは根の先端部である。樹体内の水の動きや同化作用については概要を図-2に示したが、樹の根元より離れた細根の多い部分を踏み固めると、細根部に酸素の供給が出来なくなり、樹高の高い大樹は次第に弱って枝葉を枯らしていく。

大樹を保護する際には根元より相当離れたところの土壌を膨軟にしておくことが大切である。

3. 貴重木の養生

樹木の樹勢を回復させるためには先ず根の活性化をはかることが必要であり、細根部の活動を盛んにしなければならない。

根の活性を促すうえで第一に必要なことは根に十分な酸素を供給することで、栄養分だけの供給では不十分である。これらの方法について述べると、

◎ 土壌の耕耘……根元から離れたところの表土を10～15cm耕して土壌を軟かくし、通気性（酸素の補給）をよくする。また、堆肥、落葉などの有機質を鋤込むと効果はより高い。

◎ パーク堆肥のマルチ……パーク堆肥を根元から離れたところに5cmぐらいの厚さで一面に敷く。

◎ 土壌改良剤の使用……土壌の耕耘をし、それに土壌改良剤を施用する。

◎ 通気管の打込み……耕耘や土壌改良剤等の施用できないところでは通気管を打込み、根に酸素の供給を行う。

◎ 排水の実施……滞水のあるようなところでは排水溝を作り排水をよくする。

◎ 客土……一度に多量の客土を行うことは酸素の供給を断つことになりよくないので、肥えた土を厚さ5cmぐらい数年おきに客土し、土壌の改良をする。

貴重木の樹勢の回復は、若い根の活動を旺盛にすることにあり、これは土壌の通水、通気性をよくすることである。物理的に土壌を膨軟にする方法は一回だけでは効果がなく、定期的実施する必要がある。また、土壌に有機質を供給すると微

生物、小動物の活動による土壌の改良が進むので是非有機物の補給は行いたいものである。さらに老齡樹の周辺に立入らぬよう広い範囲の柵が必要である。また、花壇を作ることも一考を要す。

老齡樹でも幹から根の出るような樹種については幹から根を出させる方法がある。この方法は幹の根元部分から1～2m、樹の太さや形によっても差があるが、ワラ、コモなどを巻き、発根した根が乾燥しないようにし新しい根を樹の根元近くに作り樹勢を回復させることである。

樹の寿命を保たせるためには地上部と地下部のバランスを保つことが必要で、地下部が弱ると、地上部がそれにつれて弱るのが普通である。地下部は肉眼で見ることが出来ないで、地上部の様子を見て診断する必要がある。(図-3)

4. 幹部の保護

老齡樹が強風などで折れたり、幹部に穴があるような場合は機械的な方法で支えなければならな

い。太枝や幹の上端部が折れた場合、折れ口から腐朽菌が侵入するおそれがあるため鋸で切口を整し、ゆ合剤、ペンキ等を塗り、さらに亜鉛鉄板や銅板で雨よけを作って材部に雨水が入らない処置をすることが必要である。

幹部が腐朽し空洞化した場合は、あらかじめ空洞内の腐った部分を除き、殺菌剤(PCNB剤)を塗布または散布しセメント等を充填する。これは空洞部からの水の発散防止と樹の補強である。幹の内部が腐朽していてもその周辺部に健全な木部があれば、その部分を通して水が通導するので樹木は生活できる。図-4にその模式図を示した。そのほか樹木の補強として幹部が腐朽したものや、幹が斜上しているものについては支柱などを立て補強することが必要である。また、バランスを保つために枝の切取りなども必要になってくる。

(造林部 大木)

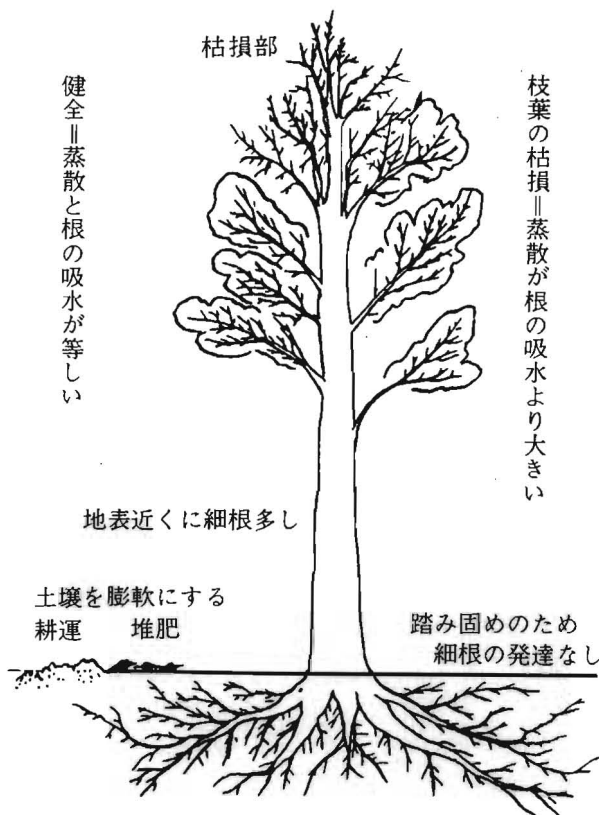


図-3 地下部と地上部の水分バランス

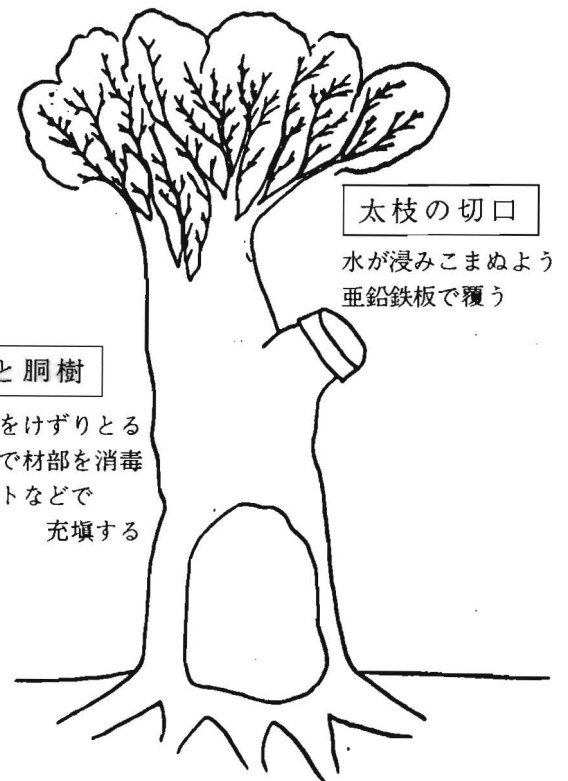


図-4 傷を受けた樹木の修復方